

笠間市議会清掃施設整備等調査特別委員会記録（第46回）

令和8年2月20日 午後1時50分開会

出席委員

委員長	西山	猛	君
副委員長	益子	康子	君
委員	長谷川	愛子	君
委員	酒井	正輝	君
〃	河原井	信之	君
〃	鈴木	宏治	君
〃	川村	和夫	君
〃	坂本	奈央子	君
〃	田村	幸子	君
〃	林田	美代子	君
〃	村上	寿之	君
〃	石井	栄	君
〃	石松	俊雄	君
〃	大関	久義	君
〃	小藪江	一三	君
〃	石崎	勝三	君
〃	畑岡	洋二	君

欠席委員

委員	安見	貴志	君
〃	田村	泰之	君
〃	飯田	正憲	君
〃	大貫	千尋	君

出席説明員

環境推進部長	小里	貴樹	君
資源循環課長	成田	崇	君
資源循環課長補佐	友部	光治	君
資源循環課G長	水越	禎成	君

出席議会事務局職員

議 会 事 務 局 長	山 田 正 巳
議 会 事 務 局 次 長	石 井 謙
次 長 補 佐	鶴 田 貴 子
主 査	上 馬 健 介
係 長	神 長 利 久

議 事 日 程

令和 8 年 2 月 2 0 日（金曜日）

午後 1 時 5 0 分開会

1 開会

2 案件

(1) 環境センター整備改良検討業務の進捗状況について

(2) その他

午後 1 時 5 0 分開会

○西山委員長 委員の皆様には、全員協議会終了後、大変お疲れのところ、第 46 回清掃施設整備等調査特別委員会に御出席を賜りましてありがとうございます。

○西山委員長 それでは早速会議に入りますのでよろしくお願いいたします。

本日の出席委員は 17 名であります。欠席委員は、大貫委員、飯田委員、田村（泰）委員、安見委員であります。

定足数に達しておりますので、ただいまから会議を開きます。

また議会事務局より局長、次長、次長補佐、主査、係長が出席しております。

本日の会議の記録は、次長補佐にお願いいたします。

傍聴の申出はありません。

○西山委員長 それでは本日の案件に入ります。

(1) 環境センター整備改良検討業務の進捗状況について報告をお願いいたします。

○成田資源循環課長 それでは第 46 回の資料、タブレットをご覧願います。

03 清掃施設整備等調査特別委員会資料（資源循環課）というものでございます。調査検討業務のスケジュールの進捗状況ということで、ページをめくって頂きまして、3 ページになります。

それでは、スケジュールについて御説明申し上げます。環境センター延命化に関する調

査検討業務の進捗状況でございます。本業務は、昨年実施いたしました整備手法の再検討におきまして、延命化対策を図ることが最良であるとした中で、本格的な調査検討に着手したものでございます。

まず、業務全体のスケジュールでございますが、初めに環境センターの現状に関する調査及び整理に着手しまして、次に延命化対策に係る課題の整理、基幹改良を行う範囲の検討、そして最後に、延命化の効果検証と大きく3段階の工程で進め、およそ13か月、2か年度に渡って進めていくものでございます。

各工程の具体的な内容について御説明申し上げます。個別スケジュールの1ポツ目2ポツ目でございます。まず現状調査段階では、施設における設備機器の構成や設置状況、経過年数、これまでの整備や維持補修の履歴に関する調査、各種設備機器の重要度等を踏まえたリストの作成を行いますとともに、こうした基本情報をもとに、施設の内部、外部、躯体、設備機器等の劣化状況等の調査診断を実施しまして、その健全度について評価していくものでございます。

続いて3ポツ目4ポツ目でございます。課題の整理や、検討段階におきましては、さきに述べさせて頂きました健全度評価の結果を踏まえ、将来計画として延命化後の見通しや方向性の検討、延命化の目標年数の設定、その目標を満たすために求める性能の水準等について検討するとともに、その実現に必要な改良や修繕の範囲について課題整理とともに検討していくものでございます。同時にこの改良範囲を踏まえた概算事業費の算出、合わせて委員会のほうからも御意見等ございました延命化に合わせた規模縮小の可能性や新設に係る概算事業費についても改めて算出していくものでございます。

最後に5ポツ目でございますが、検証段階におきましては、さきに算出したしました概算工事費等を用いたコスト面の定量的な比較や定性的な比較を行い、延命化の効果について整理検証していくものでございます。

こうした段階を踏んだ工程で進めさせて頂く中で、現在の進捗状況としましては、個別スケジュールの1ポツ目、基本情報の調査整備について現在進めているところでございます。

報告は以上でございます。よろしく願いいたします。

○西山委員長 説明が終わりました。

この件について、御質問、あるいは御意見等あれば頂きたいと思えます。

大関委員どうぞ。

○大関久義委員 今、御説明頂いたのですけれども、今の段階で言える話、想定される話は、延命化で全部やっていくということのお話だけなので、委員会として、新設にしたときにどのぐらい費用がかかるかということも含めて、二本立てでやって頂きたいという要望を出していたのですが、その辺のところがこの中で報告がないのですけれども、その辺はどういうふうになってるのか、お伺いします。

○西山委員長 課長答弁。

○成田資源循環課長 申し訳ありません。ちょっと私の説明が不足しておりました。

スケジュールの表の4番目、個別スケジュールの4ポツ目の概算事業費の算出という欄を御覧頂きたいと思うのですが、新設等々に関しましては、これまでの十分な検討を進めてきておりますので、施設の規模ですとか基本情動的なものは既に整理されているという考えでございます。その上で、今回の調査検討業務の中では、基幹改良について調査を深めまして、基幹改良の概算事業費とともに規模縮小のパターンと新設したパターンの両方の概算事業費をこちらに記載のとおり出させて頂いて最終的に効果検証の中で比較検証していくということですので、委員会のほうからちょうだいしてます御意見については、このあたりで対応していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○西山委員長 大関委員。

○大関久義委員 はい、その確認はできました。

それと、費用対効果ということで、委員会のほうでも申し上げております延命化で要する費用と新設した場合に要する費用を比較する場合に、延命化では何年、20年なら20年という想定があると思うのですが、どのぐらいまで行くかわからないのですが、そういう年数と新設した場合は35年とかもっと長い期間大丈夫だということでもありますので、時間も含めた費用対効果というものも示して頂きたい。

○西山委員長 課長答弁。

○成田資源循環課長 御意見のとおり最後の効果検証段階に入ってまいりますと、延命化については20年を一つの目標としてございますが、その辺りも含めて年数の設定、そして、その20年間にかかるあらゆる費用、新設につきましては、今の施設もそうですけれども、恐らく20年を超えても何らかの手を入れていけば使えるのであろうというところもありますので、本当のトータルコスト的なもので検証していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○西山委員長 よろしいですか。

ほかにありませんか。

なければ、この件は、これで終わりにします。

続けて、茨城県央環境衛生組合のほうの協議事項というか、報告事項の中に、助燃剤の項目がありまして、その件につきまして、取りあえず担当、どなたか。部長、課長でいいかな。

それでは、課長のほうから、ちょっと報告をさせていただきます。

○成田資源循環課長 県央環境衛生組合のほうでは、現在新し尿処理施設の整備に向けまして、今年度整備基本計画のほうを策定してございます。今年度末を目途に最終的にまと

めていくということで作業を進めているところでございますが、現在の整備計画の中では、集めて処理したし尿汚泥を資源化するというような施設で検討が進められておりまして、その方式の中では、バイオガスですとか、堆肥化ですとか、リン回収、助燃材など幾つかあるのですが、県央組合のほうでは助燃材化、焼却施設で助燃剤として燃やす場合とリン回収ということでリンとして回収して活用を図る2本の方式を今候補として挙げてございます。

助燃剤に関しましては、今後、市の焼却施設でというようなお話もある中で、昨年度、地元のほうから一定の反対の御意見なども出ておりまして、現在のところ助燃材を受ける受けないというあたりについては、まだ検討段階ということでございます。

この資源化方式につきましては、県央組合のほうでは、来年度に入りまして、さらに検討、詳細を詰めていくという中で、資源化方式の選択なども検討して決定していきたいというふうに聞いております。

以上でございます。

○西山委員長 部長補足ありますか。

ないですか。

大関委員どうぞ。

○大関久義委員 私は広域の議会のほうに出させてもらっております。広域の中で、基本設計をするにあたって、今、課長が言った助燃剤化、リン回収2つの方向と言っているのですが、我々の税金も茨城町の税金も2市町でこの施設をつくっていくわけなのですが、助燃材化で処理したほうがコストがずっと違うのでそれがいいだろうということでやっているのですが、今、課長から説明があったように、地元柏井地区のほうでノーということ言われているということなのだけど、受け入れる笠間市側が地元の同意を頂けるような努力をこれからするのか、その件についてお聞きしたいのです。コスト面も違ってきます。昔と違って今の処理の方法はほとんど臭わないのです。助燃剤化しても運んでいく場合にしても密閉して運んでいきますから、全然臭わない。臭いとかどうのという弊害が余りないのです。よそを視察しても同じようなもので、ほとんど受入れてくれているのですが、それらに対する地元の同意を得るための努力というのは笠間市がやらなくちゃならないのですけども、それについてはどのように方向性をつけていくのか、お伺いしたい。

○西山委員長 長谷川委員がただいま退席しました。

課長答弁。

○成田資源循環課長 御質問ありがとうございます。

おっしゃるとおりでして、助燃剤の処理施設のほうから焼却施設へ、ほかの自治体ですけれども、搬出する際には密閉型の車両ですとか、臭気に関してはかなり高度な対策がとられているというふうに私も感じております。実はこれは令和6年度来からの話にはなるのですが、その辺り地元との説明会を重ねてきた中で、そういった資源化汚泥再生

処理施設、同じような助燃材化しているような施設への視察ですとか、そういった現場も地元の方全員ではございませんが、参加頂いて現地も見られております。説明も一定量重ねてきているわけですが、先般、そういった反対の御意向がちょっと示されているというのがまず現状としてございます。

今後、先ほど申し上げましたように、リン回収なのか助燃剤化なのか、リン回収のほうも含めてですけれども、どちらも利活用の確保というのが課題となってきますので、今後その辺りの検討が県央組合を含め2市町で協議していく中で、地元へのさらなる働きかけというものが必要となってくれば、その際は前向きに対応していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○西山委員長 大関委員。

○大関久義委員 必要になってくればじゃなくて、必要になってきてるのです。あそこに出席しているから分かると思うのですが、方式によってコストがうんと違っちゃうのです。我々市民から出される税金で運営していくわけですから、コストが下がって同意ももらえるような努力をしていかなくちゃならない。それには丁寧に説明して、現在そういうものを行っている処理場を見てもらって、こんなに臭わないのだ、こんなにきれいなのだというものを見てもらうような努力をして理解を得ていかないと。税金は我々が出すのですからコストを下げるための努力はしていかないと。だから、今後じゃなくて今なのです。だから、そういうものを部課長できちんと丁寧に説明して同意を得られるような努力をしないとコストが上がるだけです。

その辺のところは頑張ってもらいたいと思うのです。

○西山委員長 暫時休憩いたします。

午後2時09分休憩

[執行部退席]

午後2時27分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは執行部が退席しました。

次回の特別委員会を開催したいと思っておりましたが、先ほど休憩中に畑岡委員のほうからありました県央を含めて情報共有、情報共有という表現が正しいかどうかは別としても情報を得て委員会として独自の考え方をもって進めていくべきであろうと。特に設置地域の問題を早急に行政側が対応すべきであろうという意見も出ましたので、その辺も含めて正副委員長と事務局に一回預けて頂いて次回開催日も含めて内容を精査しますので、預けて頂いてよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○西山委員長 そのようにしたいと思います。

その他ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 なければ、以上で第46回清掃施設整備等調査特別委員会を終了いたします。大変お疲れのところ御苦勞さまでした。

御協力ありがとうございました。

午後2時28分閉会